

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度 第1回 日向市図書館複合施設整備アドバイザー会議
開 催 日 時	令和7年6月26日（木曜日）10：00～11：30
開 催 場 所	日向市役所4階401会議室
出 席 者	<アドバイザー> ・桑野 斉 国立大学法人宮崎大学 地域資源創成学部 教授 ・青山鉄兵 学校法人文教大学学園 人間科学部 准教授 ※オンライン参加 ・中川敬文 株式会社イツノマ 代表取締役 ※欠席 <事務局> ・総合政策部 濱田 ・総合政策課 麻田、押川、一木、野村 ・市立図書館 海野、貴田
議 題	1. あいさつ 2. アドバイザリー会議及びアドバイザー紹介 3. 議事 （1）これまでの経緯、基本的事項について （2）検討体制について （3）令和7年度 of 取組内容について （4）図書館複合施設整備プロジェクト「日向ラボ・ラボ」について 4. その他
会議資料の名称 及 び 内 容	・会次第 ・資料 第1回日向市図書館複合施設アドバイザー会議説明資料 ・参考 日向市図書館複合施設整備基本方針
記 録 方 法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ■ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
開会 1. あいさつ 総合政策部 濱田よりあいさつ。 2. アドバイザリー会議及びアドバイザー紹介 事務局より、資料に基づき説明。 3. 議事 （1）これまでの経緯、基本的事項について （2）検討体制について （3）令和7年度 of 取組内容について （4）図書館複合施設整備プロジェクト「日向ラボ・ラボ」について	

事務局より、議事（１）～（４）について資料に基づき説明。

（桑 野）現在、日向市役所ではＤＸの推進に先進的に取り組まれていると思う。現在の市立図書館の中でのＤＸの取組について教えてもらいたい。

（事務局）日向市では生成ＡＩ「Ｈｙｕｇａ－ＡＩ」を導入して先進的に取り組んでいる。導入して１年程だが、令和７年２月に策定した基本方針についても、アンケートのとりまとめ等で活用している。ただ、生成ＡＩに関しては図書館を運用している職員は違うシステムを使用していることから生成ＡＩは活用できない状況。また、館内のフリーWi-Fiも３０分の時間制限があるなど使いづらさもあるためあまり使っている方はいない状況。

（桑 野）資料２９ページに図書館を使わない理由として「図書館まで行くのが面倒」が多いが、どういった声が多いのか。

（事務局）直接そういった声を聞いたことはないが、例えば本の予約方法としてインターネットやＬＩＮＥ、電話を使った予約もできるようにし、利便性の改善は随時行っているところ。ただ、移動図書館車では６地区の公民館に週に１回訪問し、そこでも貸し出し本の予約ができるようになっているところだが浸透していない状況にある。

（青 山）基本方針の策定について、今の図書館の状況や先進事例、市民との共創についてなど非常に丁寧に進めているという印象を受けた。

施設を複合化するにあたり、現時点では様々な機能が案として挙げられている状況で、どの機能を複合化するかによって施設の持つ機能も変わってくるかと思う。徐々にだとは思いますがどの段階で決めていく予定か。

（事務局）今年度に策定を予定している基本構想の中で、ある程度の絞り込みを行いたいと考えているところ。

（青 山）事業手法の中でも説明があったが、施設運営について直営や公設民営、ＰＰＰ／ＰＦＩなどの検討を行い決定していくことになると思うが現状はどのような状況か。

（事務局）まずは図書館運営について直営にするのか指定管理者制度を導入するのかを検討する必要がある。また、ＰＰＰ／ＰＦＩ手法の検討についてもワーキンググループ会議で事業手法選定チームにて検討を行っているところ。どのような機能を複合させるかによっても変わってくるため引き続き検討していきたい。

一番は図書館サービスをどのように運用するのが良いのかといったところを悩ましいと考えており、１０年後２０年後を見据えた時に直営の方が良いのか、それとも民間活力を活かして様々なサービスを提供してもらう方が良いのかといったところを今後、アドバイザーの皆様にもアドバイスいただきたいと考えている。

（桑 野）検討体制について、現在、庁内や市民参画などで進めているが複合施設という部分が重要なキーワードになると思う。単なる施設と施設が複合するのではなく、同じ機能については機能的に親和性があるものは複合するといった視点を持ってもらいたい。

また、未来に向けての図書館について、図書館の本質については変わらない部分があるかと思うが、今後予定している日向ラボ・ラボを通じた講演会などにより哲学・フィロソフィーについて議論をしながら作っていく必要があると思う。

また、デジタルとアナログのバランスについても重要だと考えている。地方の若い方は都市

部と比較すると書店が少なくなる中、物理的な書籍に触れる機会が少ないので大切にしてもらいたい。特に、日向市ならではの郷土資料についてもきちんと管理し、デジタルを活用しながらアナログ部分のバランスを取ってもらいたい。

(青 山) 話のあったデジタルとアナログについて、都市と地方において、書籍に限らず、体験や触れる機会を得づらいう若者がいることは指摘されている。そのため、デジタルだけでなく、物理的に集まって触れることのできる場所の需要は今後も続くと考えられる。その中で、特に学校との連携が重要で、移動図書館や学校図書館機能を活用し、地域資源を集約するといった方法でアクセス格差をなくす工夫が必要だと考えている。

また、中高生の放課後や土日の過ごし方が変わる中で、部活動の地域移行など若者の居場所づくりも課題となっている。施設内に自習や趣味の場を設けることについても教育委員会など関係機関と連携して考える必要があると考えている。

さらに、複合施設は単なる同居ではなく、有機的なつながりが重要だと思う。

また、図書館複合施設の呼び方や名称についても、全体を図書館というのか、別の名称をつけるのかといった部分についても、図書館と呼びつつ多様な機能を持つ形態を参考に、今後検討していきたいと考えている。

(事務局) 現在、郷土資料については図書館本館ではなく別棟の郷土資料館に保管している状況。部活動の移行については人材の確保に苦慮しているという話は聞いたことがあるため、青山先生が言われたような状況も今後出てくるのではないかと考えられる。

学校連携については先生方も忙しく、協議の時間を持つことも難しい状況にはある。

(青 山) 学校側にも事情があることはよく分かる。また、司書についても図書館と学校図書室で分かれているということもあり、難しい部分も多いと感じている。そういった中で、校長先生など属人的ではあるがキーパーソンをつくりながら、話をつくっていくというやり方もあるとは感じている。

4. その他

※次回会議の予定について事務局より説明。

閉会